

様式第3号

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成23年度 第2回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時		平成24年3月22日(木) 10:00~11:40		
開催場所		教育支援室 研修室		
出席者	委員	益満良一、大矢根秀明、岩崎智也、渡邊富夫、田中利彦、中田鞆子 真鍋由香里、澁野敏彦、田村嘉規、佐伯直樹、屋島哲也、牛尾 巧		
	事務局	松田康宏、上中敏昭、大谷啓史、中井裕子		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	2 人
傍聴の不可・一部不可 の場合は、その理由				
会議次第		<p>開会</p> <p>1. 運営委員の委嘱</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 協議事項 (1) 平成23年度 川西市青少年センター事業総括 (2) 平成24年度 川西市青少年センター事業方針</p> <p>4. その他</p> <p>閉会</p>		
会議結果		協議事項は(案)どおり了承		

審 議 経 過

No. 1

1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭で委員の異動に伴ない新たに就任された委員に運営委員会会長の益満良一教育長から委嘱辞令が交付された。

2、会長あいさつ

大変ご多用の中、第2回青少年センター運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。

平素より青少年の健全育成並びに非行防止に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、学校・幼稚園では、卒園式、卒業式を終え、子どもたちは、来年度の新しい生活に少しの不安と大きな期待を持ちながら春休みを過ごしていると思います。

平成23年度を振り返りますと、東日本大震災の影響で人々の生活スタイルや人と人との関わりを改めて問い直す1年でありました。又、課題も多く、検証していかなければならないこともあります。

川西市においても様々な課題や事案が起っていることも承知していますが、青少年センターを中心に学校、家庭、さらには関係機関と連携を図りながら対応に努めています。本日の第2回運営委員会が実り多い協議になることを期待しております。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

3、協議事項

<事務局説明>

- (1)平成23年度 川西市青少年センター事業総括
 - 青少年の健全育成および安全確保業務
 - 非行防止対策業務
 - 青少年情報発信業務

【質疑応答】

(会長)

協議事項(1)事務局より説明がありましたが、質問及び意見をお伺いします。

(委員)

「こどもをまもる110番のおうち」についてですが、不在が少ない事業所、中でもコンビニの新規開設の拡充の体制はどのようにされるのか。

(事務局)

各小学校が窓口としてすすめている。家庭は1,840軒、事業所等については258軒、PTAや学校でも子どもたちを通じて声をかけていただき協力依頼をしている。

青少年センターでは、市内を巡回パトロールする際に事業所等に協力を呼びかけるようにしている。

(会長)

16小学校区でバラつきはあるのか。

(事務局)

地域性や協力体制など多少のバラつきがある。できるだけ均等になるよう努めていきたいと思う。

(委員)

川西市内北部では、登下校の距離も長く、多くの協力者が必要となるが、学校だけでは

審 議 経 過

No. 2

なく広く協力体制を築きながら拡充するように願いたい。

(委員)

学校安全協力員の高齢化、協力体制について今後どうしていくのか。

(事務局)

校区ごとに研修会や全体としては、年1回の交流会等で意識啓発を地道にすすめていきたい。

(委員)

今、地域での繋がり希薄さが問題になっているが、子どもたちの登下校時の見守りを行うことで活性化していけばいいのではないかと。又、地域の繋がりきつかけになればよいのではないかと。

(委員)

児童・生徒とその保護者に対する迅速且つ適切な支援指導において、今年度は父親からの相談依頼がないのはどうしてか。父親の関わりが少ないのが課題と考える。

(事務局)

今年度は、母親からの相談が殆どであったが、今までには父親からの相談もあった。父親の関わりは直接的ではないが、家庭の中では重要であると考え。

(会長)

地域との繋がりについても、父親ではなく母親が全面に対応しているという現状がある。

(委員)

学校では、父親も一緒に相談される場面はある。ただ、社会情勢が厳しく、子どもが幼い頃から母親も仕事に出てしまう家庭が増え、地域との繋がりがないのが現状である。以前のように地域(隣近所)の力が必要に思う。その場限りでは何もならないので5年~10年後を見据えて指導をお願いしたい。

(委員)

子どもが中学生になると父親の存在は大きく、子どもと対峙していくことで状況はかわると思う。親が子どもを本当に思っているのか考えるところである。

(会長)

中学生になると母親では手に負えなくなり、父親に助けを求めるというケースもある。

(委員)

今の親世代は大変だと思う。昔は夕食を家族で囲みコミュニケーションはとれていた。食事を共に摂る時間が大切なのではないかと考える。

(委員)

1年前のこの会で、地域の不登校生徒のことで話をしご意見をいただき、学校と繋がることのできた。現在も年2回民生委員と学校との定例の連絡会をもつようになった。学校では、授業や部活指導を終え家庭訪問をされると聞く。もう少し、市にも手伝ってもらえないか。学校と市(福祉)の連携を強く希望する。又、虐待と思われるケースで関係機関に連絡を入れる時に対応の不備を感じた。

(会長)

早急に対応しなければならないことが、できてないことは課題として受け止めたい。

(委員)

前任校の定時制では、生徒の半数以上が中学時代殆ど学校に行けていない。家庭でも問

題を抱え、居場所がない子どもたちが登校してくる。学校は様々な悩みを抱えた子供たちの出会いの場でもある。又、いろいろ経験できる場であり、交流の場である。子どもが何を求めて学校に来るのかを考え、それを受け入れていく体制づくりをしていきたい。

(委員)

青少年センターだよりの各地区の補導委員からの情報提供を見ますと、多くの子どもたちが地域の中で育てられていることを実感します。

地域の方が臨場感を持って動かれていることが読み取れます。担任が空き時間に難しい子どもへの対応をしている。大きな問題については学校として取り組んでいる。

学校を軸とした生徒指導は昔から変わらない。しかし、子育ては家庭の力8割、地域・学校の力2割と考えている。又、家庭に対しては我々が支えていける体制を考えていく必要がある。誰しも限界はあり、熱意だけではできないが、粘り強く各関係機関が連携して関わることが重要である。

(委員)

少年事件を通して背景を考えると愛情不足を感じる。子どもたちは大切に育てられていないように思う。愛情不足を親に代わって学校や地域でカバーできるのかを考える。

兵庫県警察本部では少年に対する施策で「少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動」を行っている。各警察署が、非行、不登校等の問題を抱える少年等について、保護者の同意を得てから、支援対象少年として、継続的な指導・助言、居場所づくり等の立ち直り活動を推進している。

3、協議事項

<事務局説明>

(2) 平成24年度 川西市青少年センター事業方針

概況

青少年の健全育成及び安全確保業務

非行防止対策業務

青少年情報発信(広報啓発)業務

重点事業

地域安全パトロールの充実

児童・生徒とその保護者に対する迅速且つ適切な支援指導

園児・児童及び生徒の安全確保・非行防止教室(研修会)の充実

インターネット・ケータイ問題への取り組み

「学校安全協力員」「こどもをまもる110番のおうち」の拡充

補導活動と研修の充実

平成24年度阪神地区青少年補導委員連絡協議会総会・研修会の開催

(委員)

地域と青少年団体の連携を考えると、昔と違ってサークルに入ってるような気持ちでボーイスカウトに入る。親が長いスパンで子どもを見てるように思えない。

親の都合で子どもが動いている。小学校から中学校と段階を追って指導してきたが最近では受け付けない。スキルが身につかない。理解してもらえない。祖父母世代が今の親世代を育ててこなかったのではないか。

(委員)

保護司の立場から社会との連携を考えると、保護観察を受ける段階でようやく父親が関わるケースが多く、いつの時代も子どもは母親に育てられている。今は、母親イコール母性ではなく母親自身のことの方が自分優先である。親の意識の変化がみられる。

(委員)

保護司と青少年センターのケース会議については、対象者の周辺調査や交友関係等の多面的な指導に繋がった。

(会長)

家庭の教育力、地域の教育力の低下が叫ばれ長く続いているが、数年前に文科省のアンケート調査で「家庭の教育力が弱ってると思う」が80%、「地域の教育力が弱ってると思う」が50%であった。そのような結果を見ても子どもたちが孤立している状況がわかる。対処療法ではなく、根本から議論しなければならない。

子育ての仕組み、女性の就労のあり方を根本的に考えなければならないと感じる。

(委員)

縦並びの行政組織、横並びの連携の仕組みは今後ますます必要になってくるのだと思う。子育ては様々な方法があるが、包容力と忍耐力そして柔軟性を持つことが肝心である。

(委員)

青少年の問題は広域化している。また、小、中学校でもいろいろな問題がありますので現状を教えてください。

(委員)

少年非行の概況については兵庫県下、川西市ともに同様の傾向にあるが不良行為少年の件数は増加している。

(委員)

逮捕された少年を見てみると、徐々に時間をかけて話すことで、何らかのきっかけをつかむことができ、心を開けてくれる。

(委員)

インターネット・ケータイのリーフレットで他府県の被害事例や状況ではなく、川西の現状を知りたい。川西の現状を知ることによって保護者は現実を受け止めていただける。

(委員)

学校は、学習指導により学力を向上させることが役割であり、教師の指導力向上は必須である。その為には、保護者の協力も必要であり影響が大きい。

(委員)

学校安全協力員などの地域の人と挨拶をしている様子を見ると、子どもも大人も嬉しい気分になる。コミュニティをコーディネートしなくてはいけない時代である。

P T Aは、やがて地域やコミュニティを担っていかなければならない存在である。学校が地域とP T Aのつなぎ役になりたい。

閉会